様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　22　年　5　月　6　日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：　2007～2010
課題番号：19510723
研究課題名（和文）　啓蒙期西欧における科学アカデミーと女性

研究課題名（英文）　Women and Academies of Sciences in the Age of Enlightenment

研究代表者 川島慶子
（　KAWASHIMA KEIKO　）
名古屋工業大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：20262941

研究代表者の専門分野：科学技術史、科学論
科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー
キーワード：パリアカデミー、ジェンダー、王立協会、ロシアアカデミー、18 世紀科学啓蒙

１．研究計画の概要

本研究は、啓蒙時代のヨーロッパにおける学術研究及び啓蒙機関としてのアカデミーと女性との関係を、特にフランスの状況を中心にジェンダーと科学という視点から考察するものである。これらのアカデミーに関してはすでに欧米を中心に数々の研究がなされている。しかしそこにジェンダーの視点が持ち込まれることはまれであり、啓蒙時代の科学とジェンダー研究では、むしろサロン研究の方が盛んであった。本研究は、啓蒙時代のこの状況を踏まえた上で、ヨーロッパのアカデミーの科学に関する部門において、女性たちがどのような形でそれに関わっていたのかということを具体的に示す試みである。申請者は修士論文より一貫して啓蒙時代の科学とジェンダーとの関係を研究してきた。その中でアカデミーは欠かすことのできない重要な要素であるという認識を持っている。しかしアカデミーと女性との本格的研究はなされていない状況にある。そこの研究を行うことによって、啓蒙時代の科学とジェンダーの新たな局面を明らかにするものである。

２．研究の進捗状況

科学アカデミーに関するデータベースが完成した。これをどのように図式化するか、そしてどうすれば「女性」という要素を明確に表現できるかが最終年度の課題となる。
本研究についてベルギーの化学史協会であるmemoscienceで招待講演をおこなった。ここでは啓蒙時代に科学アカデミーの重鎮であったラヴワジエの妻であり研究協力者であったラヴワジエ夫人の活動と、科学アカデミーの関係について発表し、国際的に有意義な研究交流を行うことができた。さらにこのことで、フランスの化学史協会からも講演依頼を受けている。この時そこで知己となったやはりジェンダーと科学史の問題の専門家であるBrigitte Van Tigerren氏と以前から共同研究しているフランスのPatrice Bret氏の主宰するブタペストの国際シンポジウムでやはりラヴワジエ夫人についての研究発表を行った。このシンポジウムの論集はいずれ、本として出版される予定である。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している
現在までのところで、データベースが完成したので、啓蒙時代について科学アカデミーに関するかなりの情報が非常に明晰な形で編集できるようになった。
また、女性に関しても、単に科学研究者としてアカデミーにかかわったと人物だけでなく、ロシアのペテルスブルクアカデミーのように、国のトップである皇帝と、組織の長である長官という政治的局面から女性が積極的にそこにかかわった組織もあることが判明し、女性に注目することでこの時代の科学と国家のありかたという側面にも光を当てられるようにかったことは非常に大きな功績であると考えている。
また、これは当初の課題である啓蒙時代を多少はみ出た形になるが、18 世紀のフランス革命の精神を受けた 19 世紀から 20 世紀初頭における科学アカデミーと女性という問題に関して、マリー・キュリーと世界中の科学アカデミーの関係についても、さまざまなことが判明し、現代の女性の問題と科学アカデミーの関係についても深い考察を行うことができた。

４．今後の研究の推進方策

本年度は最終年度であり、昨年度までの調査結果をまとめるのが主な作業である。特に昨年度までにデータベースの整理がほぼ終わったので、今年度はそれを図表化する作業を完成する。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

①Keiko KAWASHIMA, "Two Popular Accounts of Émilie du Châtelet and the Gender Problem", *Historia Scientiarum*, 査読あり, 17-2, 2007: 121-133.

②川島慶子「ラヴワジエ夫人研究の変遷に見るジェンダー問題」『化学史研究』査読あり, 36-4(No.129)2009: 34-43.

③Keiko KAWASHIMA, "Two Popular Accounts of Émilie du Châtelet and the Gender Problem", *Historia Scientiarum*, 査読あり, 17-2, 2007: 121-133.

〔学会発表〕（計４件）

①川島慶子「啓蒙主義哲学の功罪」, サンドラ・ハーディング『科学と社会的不平等』研究会, 2009 年 10 月 31 日, お茶の水女子大学ジェンダー研究センター.

②Keiko KAWASHIMA, "Madame Lavoisier, une Négociatrice de la République des Lettres" in Simposium N.49: Mediators of Sciences, Woman Translators of Scientific Texts, 1600-1850, International Congress of History of Science, July 29th 2009, Budapest.

③Keiko KAWASHIMA, "Les Lavoisier, un couple idéal pour la recherche scientifique?" Conference organized by Mémosciences, April 1st. 2009, Bruxelles.

④川島慶子「ラヴワジエ夫人研究の変遷に見るジェンダー問題」2008 年度化学史研究発表会シンポジウム「18 世紀の化学の諸相：産業・社会・ジェンダー」, 2008 年 7 月 5 日, 東京工業大学.

〔図書〕（計３件）

①川島慶子『マリー・キュリーの挑戦―科学・ジェンダー・戦争―』トランスビュー, 2010: pp.210.

②井上俊・伊藤公雄編, 「E.F.ケラー『ジェンダーと科学』(1985)」『近代家族とジェンダー』社会学ベーシックス５, 世界思想社, 2010: 167-175.

③Noretta Koertge ed., "PAULZE-LAVOISIER, Marie-Anne-Pierette", *New Dictionnary of Scientific Biography*, Detroit et.al., Thomson & Gale, 8 vols, vol. 6, 2007: 44-45.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕